

教職員共済創立50周年特別企画  
「学校 花いっぱい運動」  
取材報告

# 地域に支えられ 花や野菜を育てる

PART  
2

■京都府京都市立音羽小学校

音羽小学校の花や樹木は、たくさんの花ボランティアの皆さんによって守られています。子どもたちはその姿を見て、自分たちも一から育てることの大切さを学んでいます。



上/「花いっぱい運動」のチューリップの球根を植える子どもたち。下/「ニンジンだよ」と見せる子どもたち。

昨年は、教職員共済創立50周年特別企画の「学校花いっぱい運動」に申し込み、100個のチューリップの球根を子どもたちの手でプランターに植えました。「今年の春は、たくさんさんのチューリップやピオラなど、色とりどりの花が満開になりました」と、小野教頭先生もうれしそうに話されました。

音羽小学校では、1年生は朝顔とチューリップ、2年生はミニトマト、3年生はホウセンカとヒマワリ、4年生はツルレイシ（ゴーヤ）、5年生は野菜を担当するのだそうです。中庭を歩いていると、ちょうど花壇を囲んでいる子どもたちと先生に会いました。野菜作りを担当している5年生の子どもたちで、「ほら、これニンジンだよ」と引き抜いて見せてくれました。

「毎日、どれくらい育ったか見に来るのが楽しみ」「早く食べたいなあ」などと口々に話す子どもたち。

## 音羽小学校と 花ボランティアの皆さん

京都市山科区は、音羽山と醍醐山などで京都盆地からは隔たっていますが、江戸時代には街道町として栄えていました。現在も多くの観光客やハイカーで賑わっています。また、滋賀県大津市との県境に接しているため、山科区にある音羽小学校の職員も、大津市から通っている方が多いそうです。

音羽小学校の正門を入ると、両側に桜の木が大きく枝を広げており、4月には新入生を満開の桜で迎えます。校庭もぐるっと桜の木で囲まれ、その多さに驚かされます。中庭などの花壇の手入れも行き届いています。こうした音羽小学校の環境を整えてくださっているのが、地域の方々だと小野孝子教頭先生は話されます。



上/掃除や枝の伐採など、献身的に世話をしてくださる花ボランティアの皆さん。  
左/小野孝子教頭先生。



音羽小学校には、「花ボランティア」を行う地域の方々がいっぱいいます。この活動は、2011年ごろに始まりました。最初は近所にお住まいの花好きの方が1人で毎週末に音羽小学校を訪れ、花の手入れをされていたといいます。それが今では20名以上の方が参加してくださっています。

自然に子どもたちと花ボランティアの皆さんとの交流も生まれるようになりました。落ち葉などの清掃活動もしてくださるボランティアの方のお手伝いをしたり、「ありがとございます」と感謝の言葉を伝えたりする子どもも見られるようになりました。子どもたちは、花壇に落ちる枯れ葉をみんなで一緒に掃除しながら、ボランティアの方と「花や樹木の周りがきれいになると、花が生き生きと咲いてくれる」ことを教わります。

## 自分の手で育てることで 自分も人も大切にすることを学ぶ

音羽小学校では、「花いっぱい運動」を毎年行っていますが、今年度からは先生方もさらに積極的にこの運動に取り組んでいます。その際にも、花ボランティアの皆さんのご協力をいただくことになりました。

子どもたちに季節の草花に親しみをもってもらい、草花を育てる喜びと楽しさを味わってもらおうと、土作り、苗植えの段階から関わるようにしたいと考えています。

花ボランティアの方々だけでなく、図書ボランティアやクリーンボランティア、見守り隊、放課後の学び教室など、さまざまな形で地域の方々の協力に支えられている音羽小学校。年度末にはお世話になっている方々に感謝の意を伝えるため、「感謝の会」を開催。子どもたちから感謝の言葉を伝え、合唱を披露して喜んでいただいています。

地域の皆さんとの交流によって、心豊かな子どもたちが育まれているのです。



チューリップとピオラが咲き誇る花壇。

もたち。中には「6年生になるとお世話ができなくなるんだよ。6年生になっても続けたいなあ」と話す男の子は、自分が育てた野菜と離れるのが本当に寂しそうです。

小野教頭先生のおっしゃる「花や野菜の成長を見守る心、継続することの大切さ」を、子どもたちはしっかりと心に刻みつけているようです。「花や野菜を育てることから、『自分も大切に、人も大切に』心も育っているはずですよ」との言葉どおりの子どもたちの様子でした。

## Column

### 子どもに「生きる力」を育むために

音羽小学校の正門前には若宮八幡宮の祭神は応神天皇、仁徳天皇、菅原道真であることから、それぞれの「勇」「仁」「智」という三つの徳を校章の三枚の羽に込めているそうです。「勇」は主体性のある学習意欲、「仁」は学び合い（社会性）、「智」は創造性。これらを育み、子どもに「生きる力」を育む教育活動を音羽小学校は目指しています。

そして、子どもたちには「すなおなよい子」になってほしいというのが音羽小学校の教育目標となっています。



音羽小学校の正門。